

遊び体験でにぎわう

登米市こどもまつり開催

「第8回登米市こどもまつり」は9月25日、迫体育館および迫公民館で開かれ、多くの親子連れでにぎわいました。

会場には、ステージイベント、キッズサッカー、人形劇や遊びのワークショップ体験コーナーなどが設けられ、子どもたちは大喜び。小石に絵の具で絵を描くストーンアートや紙で作る紙コプターに人気が集まりました。親子で訪れた三島千佳子さん＝広島県＝は「登米町の実家に帰省していて、息子と参加しました。いろいろな催しがあり、幅広く遊べるのでたっぷり楽しめますね」と満足していました。



ピエロのマジックショーも開かれ、子どもたちは興味津々。何度見てもタネが明かせず、首を傾げていました。

世界の技 迫で見せる

長沼で震災チャリティー

ハーレーチャリティーイベント「KIKUCHI MEETING」は9月10日、長沼フットピア公園特設会場で開かれ、県内外から千人以上の観客が訪れました。

イベントは、フリースタイルモトクロス、よさこいやライブなどが催されました。フリースタイルモトクロスは、世界で活躍する鈴木大助選手＝迫町錦東出身＝を筆頭に、国内外で活躍するライダーたちが集結。空中で、人とバイクが一体になった見事な技を披露し、観客を盛り上げました。

イベントの収益と会場での募金は、東日本大震災みやぎこども育英資金に寄付されました。



会場には、多くのハーレー・ダビッドソンが集まり、メインステージ前に展示。観客は、生演奏とバイクを同時に楽しみました。

秋晴れの下 水上疾走

長沼で27回目のレガッタ

「第27回長沼レガッタ」は9月25日、アイエス総合ボートランドで開かれ、参加した約300人のクルーが、水上で熱戦を繰り広げました。

レガッタは、ナックルフォア、カヌー、ダブルスカルの3種目を男女、年齢別の11種別で競われ、合計83クルーが出場。会場付近では、心地よい秋晴れの下、選手や応援団がテントを並べバーベキューを楽しむなど、スポーツと食欲の秋を楽しみました。渥美香織さん＝中田町加賀野一＝は「会社の仲間でエントリーしました。成績が今ひとつだったので、来年は練習して臨みます」と、来年に向けて意気込んでいました。



ゴール目前、1位争いのデッドヒートを繰り広げるクルーたち。観客席からは大きな声援が寄せられました。

340年前の風流今も

豪華絢爛とよま秋まつり

340年以上の伝統を誇る「とよま秋まつり」(登米秋まつり協賛会主催)は9月17、18の両日、登米町市街地で開かれ、新能、神楽大会や山車の行進などさまざまな催しで盛り上がりました。

「山車総見審査会」には、各町内会手作りの山車10基が登場しました。戦国武将、歌舞伎の演目やアニメなど、それぞれが趣向を凝らした山車に、つめかけた見物客は拍手をしたり、カメラのシャッターを切ったりして楽しみました。

まつりは、1675(延宝3)年から始まったとされている伝統行事で、県無形民族文化財に指定されています。



山車が軽快なお囃子に合わせて練り歩くさまは、まさに「日本の祭り」。

本市発幾何学の魅力

トリエンナーレ2016開催

本市中田町石森出身でフランスを拠点に活動している造形作家、佐藤達さんと国内外の造形作家の幾何学構成作品ほかを展示する「登米アートトリエンナーレ2016」は10月1日から31日まで、サトル・サトウ・アート・ミュージアムなどで開かれています。

トリエンナーレは、幾何学構成作品の魅力に触れてもらおうと、2010年から始まり、今回で3回目です。家族で訪れた松原萌香さん＝神奈川県横浜市＝は「幾何学構成といっても、人によって感じ方や表現方法に違いがありおもしろいです。自分の作品の参考にします」と話していました。



作品は、サトル・サトウ・アート・ミュージアムのほか、市内6箇所に設置。スタンプラリーで、完走すると記念品がもらえます。

藩政からの伝統芸能

米岡芝居が5回目の公演

米岡芝居第5回公演「小里敵討～お初観音の願い～」は9月18日、米山体育館で上演され、市民手づくりの舞台が客席を魅了しました。

米岡芝居は、藩政時代から昭和初期まで米山町米岡で伝承されてきた地方歌舞伎です。2002年に米山町の有志が復活させ、これまで4回上演しています。

物語は、涌谷町で拾われたお里が主人公の創作劇。感動の舞台に涙を流す観客も。来場した二階堂順一郎さん＝中田町浅部＝は「迫真の演技に感動しました。途絶えたものを再開し、ここまで仕上げた皆さんの情熱は素晴らしい」と関係者の努力を称えました。



物語の最後は、孤児だったお里(中央)は、実の父親(中央左)と再会。家族で新たな幸せを見つめる旅に出ました。